

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100027		
法人名	社会福祉法人 光風会		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	徳島県徳島市下町本丁59-26		
自己評価作成日	平成26年6月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが安心して暮らせるよう、全職員が個々を理解し、持てる能力に着目した関わりを持ち、ご本人の意欲や活気が出るように支援している。ご家族に対しては、毎月近況報告や、季節ごとにやまもも便りを発送し、日常生活・心身の状態について報告している。また、状態の変化があった場合には、その都度ご家族に電話にて連絡している。面会時やご家族を家族会や遠足・誕生会にお招きし、信頼関係の構築に努めている。毎月徳島市上八万支所に生花ボランティア、大日寺の境内にて巡礼者に対するお接待を実施している。地域の子ども達との交流に努め、認知症高齢者への理解を得ると共に、交流を深めている。認知症カフェを開催し、在宅での介護者等の相談をお受け、GHでゆったりした時間を持ってもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山と田畑に囲まれた緑豊かな高台にいちしている。同一法人の運営する複数の他サービス事業所が併設している。職員は、法人内の様々な会議や研修会に参加して研鑽を積むとともに、医療や災害等に関する連携を図っている。職員は、理念に沿って利用者の思いを大切に、一人ひとりがその人らしく安心して暮らすことができるよう取り組んでいる。利用者の有する力を探り、それらを十分に発揮することのできる機会を創設するなどして、本人のやる気や喜びに繋げる工夫を行っている。また、認知症カフェを開設して広く地域住民に対する介護相談や相互交流の場を設けるなど、事業所の有する専門的機能を発揮している。地域の小学生との交流会や利用者自身が行う生け花ボランティア、八十八か所参りの巡礼者へのお接待など、地域との交流を積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域との繋がりを大切にす る」とあり、朝の申し送り後に、出勤している 職員全員で理念を復唱し、職員全員が理念 を共有し意識づけている。また、実践に繋げ ている。	職員間で話し合って理念を作成し、日頃の業務 の目指すところとして大切に捉えている。毎朝、全 職員で理念を唱和している。また、理念を意識した 支援を行っている。職員の人事異動の際にも、管 理者から理念の意義と重要性を伝えるなどしてい る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	生花ボランティアの実施、巡礼者へのお接客 の実施、地元の小学校の生徒さんとの交流 会を実施し交流を深めると共に、地域の 一員としての役割を常に認識している。	認知症カフェを開設し、広く地域住民の参加を得ている。介護相 談や相互交流の場となっており、事業所の有する専門的機能を 発揮している。また、地域の小学生の来訪を受け入れて、利用者 との交流会を行っている。利用者と職員で、地域の公共施設へ生 け花を提供したり、八十八か所参りの巡礼者にお接待を行ったり して、積極的に地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	随時、相談にのると共に、認知症カフェを 開催し、福祉の入り口として位置づけし、在 宅で認知症高齢者をお世話されている方等 の支援等に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議では、毎回テーマを決め、参 加者より貴重なご意見を頂き、有意義な会 議を目指している。 活動報告・やまもも便りの報告を行ってい る。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利 用者や地域住民の代表者、市担当者、地域包括 支援センター職員等の出席を得ている。出席者 とは積極的に意見交換を行っている。出された意見 は会議録としてまとめたうえで全職員へ伝達し、日 頃の実践に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市役所を訪問し、ご指導を頂い ている。 運営推進会議に出席頂き、ご意見を頂き、 意見を反映するよう努めている。	管理者は、頻繁に市担当窓口へ出向き、担 当者と気軽に話し合っている。事業所の広報 誌“やまもも便り”なども提供し、事業所の活 動を伝えるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	法人で毎月開催する「身体拘束委員会」に 出席し、職員全員に周知し、施設内でも独 自に勉強会を重ねて、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる。	職員は、身体拘束の弊害を正しく理解する よう努め、拘束しないケアを実践している。定 期的に法人の開催する研修会に参加し、ま た事業所独自の勉強会も重ねるなどして、つ ねに日頃のケアを振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見逃ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	施設内でも、高齢者虐待防止法に関する 勉強会を実施し、防止に努めている。職員 からの質問に対しても分かり易い事例を使 用して随時、説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で、成年後見制度・日常生活自立支援事業について研修会を行い、必要者が使用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時や制度改正等は、説明を行っている。ご家族からの質問に対して、詳しく応えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族同伴遠足を開催し、意見を頂く機会を設けている。また、面会時にも適宜ご意見を伺っている。	家族の来訪時には、職員から積極的に話しかけるよう努めている。遠方の家族には、電話で意見を聞くなどして関係づくりに努めている。家族会や家族同行の遠足、秋祭り、お誕生会等、家族とともに活動する機会を多く設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングを月1回以上実施し、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。会議では、理事長、他管理職、やまもも荘、ケアハウス職員や専門職も参加し、意見を聴く事が出来、繁栄している。	日頃から管理者は、職員への声かけを意識して行うことで、意見や要望を引き出すよう努めている。月1回、職員間でミーティングを行い、自由に意見を出し合っている。出された意見や要望を代表者へ伝える仕組みを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力や、職場環境・条件の整備等について代表者に伝えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で、月1回以上研修を行っている。外部研修にも行く機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に可能な限り参加し、ネットワークづくりに努めている。認知症介護実践者研修やリーダー研修に職員が参加できるように支援し、他施設訪問の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関より情報を頂くと共に、サービスを導入する段階で、本人の要望等をお聴きし、安心した暮らしを提供できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する段階から家族の要望等をお聴きしている。グループホームでのケアの方針等を説明し、ご家族の要望を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前には、必要に応じて居宅ケアマネ等と連携し、他のサービス利用も含めた対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の場としての役割を持ってもらい、得意な事が活かされ、継続できるよう職員が支援し、一緒に助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告、季節ごとに『やまもも便り』をご家族に送付している。家族と一緒に同伴遠足や食事会等の機会を設けている。また、誕生会には、ご家族を招き、家族と共に誕生日をお祝いをしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が行き来が出来るよう支援している。利用者の要望を伺い、馴染みの場所へは個別ケアで対応することでゆったりとした時間を過ごしてもらっている。	知人や親族の来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者が退居に至った場合には、仲の良かった利用者との関係が途切れることのないよう支援している。また、利用者の希望する場所への外出を個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入りながら、会話を補佐したりレクリエーションを用いて、利用者同士の関わりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者に移られても、親しくされていた利用者と共に訪問やお見舞いに行くなど、関係継続に努めると共に、相談、支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の想いを大切に、出来る限り意向に沿えるように努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて思いや意向を把握するよう努めている。利用者の行動等に対し、認知症をその理由として一方的に決めつけることなく、行動の根底にある本人の思いなどの把握に努めたうえで、本人本位の支援へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族より詳しい生活歴・サービス利用内容等を伺い繁栄できるように努めている。また、利用者との日々の会話に於いても把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ができる事に着目し、その力が継続で着ような支援に努めている。一人ひとりの生活リズムを理解し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族から要望を聴き、また、必要な関係者から助言をもらい、ケアの反映できるように介護計画を作成している。	利用者や家族の要望を聞き、担当者会議で意見を出し合って介護計画を作成している。毎日、利用者一人ひとりの目標に対するモニタリングを行っている。また、3か月ごと、及び本人の状態変化に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態等は個々の介護記録に記載し、また連絡帳やミーティングにて職員間で情報を共有し、必要時には介護計画の見直しもやっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院と通路で結ばれており、利用者の体調の変化が見られた時には、医師・看護師に相談し、指示を頂いたり、診て頂いている。また、隣接する施設で、音楽療法・コンパニオンアニマルに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と周辺の情報や支援に関する情報交換を行い、地域行事に参加したり、保育所や小学校との交流会を実施し、地域の子ども達に、おはぎの作り方などを伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な訪問診療を受けている。その他、専門医の受診が必要な場合はご家族に連絡し、受診支援を行っている。	利用者や家族の希望を聞いたうえで、協力医療機関の受診を支援している。定期的に協力医療機関による訪問診療や訪問看護を受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回来てくれているので、利用者の状態の変化や気づき等を報告し、助言を頂いている。夜間も必要時相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合は情報提供に努めている。病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族が安心して利用できるように、状態の報告と共に、記録に残し、職員全員で情報を共有し、チームケアを実施している。	契約時の段階で利用者や家族と話し合い、重度化や終末期に関する支援方針を定めている。本人の状態変化や家族の意向に応じて、柔軟に対応するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時や事故発生時についての研修を受けている。夜間時も救急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施や災害対策会議に参加し、避難誘導時の留意点や対応方法を話し合っている。	年1回、消防署や地域住民の協力を得たうえで、事業所独自の避難訓練を実施している。また、毎月、法人全体の避難訓練を実施しており、利用者とともに災害時の避難について訓練を重ねている。災害時に備え、物品等の備蓄を行っている。さらに、法人の災害対策会議に職員が出席し、具体的な取り組みについて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを気付潰けないよう補佐しながら、さりげないケアに努めている。また、プライバシーを損ねないように十分配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に言葉づかいや態度に注意を払った支援を心がけている。日頃から、職員間で互いの支援を振り返り、話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の思いや希望が表現できるような関係作りに努め、自らで決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や希望に合わせた対応を心掛けている。ピアノ演奏・散歩・歌を唄う等、個々のペースで楽しい時間を過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えやお出かけ時は、ご自分で決められている。見守りや支援が必要な方は、職員が手伝い希望にそった支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や施設の畑で収穫した野菜と一緒に調理している。個々の好みや力を理解し、野外で季節を感じながら食べたり、食事が楽しい物と成るように努めている。	週3回、職員は、利用者の好みなどを聞いて献立をたて調理するようにしている。季節の食材や事業所の畑で収穫した野菜等を盛り込んでおり、利用者が食事を楽しむことができるよう工夫している。屋外で手づくりのおやつを食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に合わせた食事形態で提供している。食事摂取量が少ない方に関しては、嗜好品や食べやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて、食後洗面所にて口腔ケアを行っている。毎週1回以上義歯を洗浄液につけ、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインやパターンをつかみ、トイレ誘導や排泄介助を行なっている。自尊心に配慮しながら、個々に合わせた介助に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄のサインやパターンの把握に努め、さりげない声かけや誘導を行うことでトイレでの排泄を支援している。排泄の自立に向けて身体機能の向上を図るべく、立ち上がりや歩行等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し把握している。出来るだけ自然排便を促すよう、個々に合わせて水分補給や乳酸菌飲料、植物繊維が多くとれる食事を提供している。散歩・ラジオ体操・リハビリ体操等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の状態に合わせて入浴して頂いている。また、個々に合った入浴介助や支援を行っている。	本人の希望に応じた入浴支援を行っている。入浴を拒む方には声掛けを工夫するなどし、少なくとも週2回は入浴できるようにしている。季節によって、柚子湯や菖蒲湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調や状況に応じて休息が取れるように支援している。夜間寝付けない方には、傍らで寄り添ったり、温かい飲み物を飲んで頂く等の配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より薬剤情報についての説明をもらい、薬の目的や副作用について確認している。薬の処方変更された時は、本人の状態変化が見られる時は詳細を記録し、協力医療機関と連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるように努めている。食事作り、お膳拭き、洗濯干し、野菜作り等、職員と一緒にしている。利用者の好みを伺い、食事やおやつ作りに反映している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物に出掛けたり、希望される場所に付き添うなどの支援を行っている。また、ご家族に相談し参加して頂いている。地域の一人として、生花ボランティアやお寺でのお接待等の実施支援を行っている。	花見や季節の行事、公園、道の駅等、年間を通じて様々な外出の機会を設けている。家族とともに遠足を楽しんでもらうこともある。また、地域の催しや祭りへの招待をいただいて出かけている。外出には、喫茶店に立ち寄りしたり、ドライブスルーでハンバーガーを買ったりしており、日頃できないことを体験してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、小遣いをお預かりし、本人の希望により買い物や外出の援助を行い、自分で支払って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に合わせて家族に電話を掛ける支援を行っている。また、年賀状を家族宛てに書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が気持ちよく過ごして頂けるように、掃除、整理整頓、換気、室温湿度調整に注意している。また、季節感を味わって頂けるように壁画環境や季節の花を飾ったり、日にちや行事が分かるように掲示している。	玄関や庭園には、手入れの行き届いた花や木々があり、居心地の良い空間となっている。室内は清掃が行き届いている。廊下の随所にソファを設置し、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのスペースを利用し、テーブルや椅子、ソファ等を利用して自由に過ごせるように配慮している。一人になりたい時は、自由に居室に戻ることが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染のある物、写真や日用品が部屋に持ち込まれ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、気の合った利用者と一緒に過ごせるように工夫している。	事業所では、利用者に使い慣れた家具や好みの品物を持ち込んでもらっている。利用者によっては、家族の写真や思い出の物を飾ったり、鏡台やテレビなどを置いたりしている。また、趣味のピアノを持ち込んで自由に楽しんでいる方もいる。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるような空間づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・浴室・トイレ等に手すりを設置している。心身の状態に合わせて環境整備し、混乱や失敗があった場合は、職員全員で話し合い、利用者の力や意欲を損ねないように支援している。		